井 手 町 企 画 財 政 課

令和5年度

地方創生関係交付金 事業評価調書

目次

＜デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）＞

１．「子育て、子育ちにやさしい」京都創生プロジェクト事業・・・・・・・・・Ｐ２

２．あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らし」を

～みんなが主役の地域振興事業～・・・・・・・・Ｐ５

＜地方創生整備推進交付金＞

３．～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画・・・・・・Ｐ９

１.「子育て、子育ちにやさしい」京都創生プロジェクト事業

【デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）】

事業費：２，２５０，８９０円　　交付金充当額：１，１２５，４４４円（補助率１／２）

事業内容

１. 大学との連携による子育て支援と交流の場づくり【実績額:1,751,363円】（地域創生推進室）

〇空き家を活用した京都産業大学井手応援隊活動拠点事業

① 京都産業大学井手応援隊活動拠点「むすび家ide」運営事業【実績額:751,363円】

町内小学校の児童を対象とした寺子屋については、「学びと交流の場」として京都産業大学井手応援隊の学生が対面形式での児童の学習支援及び交流企画を全9回実施しました。また、コロナ禍により休業していた学生と協働で実施する「むすび家カフェ」の営業を再開し、地域の交流促進やまちの賑わいづくりを図りました。

② 学生による地域課題解決支援事業【実績額:1,000,000円】

令和5年9月にオープンした地域交流拠点「テオテラスいで」を舞台に、京都産業大学・株式会社まちづくり井手・井手町の共催により、イルミネーションイベントを実施しました。町内の関係団体等から地域課題を聴取し、学生の視点で課題解決の方策を提案し実践する「井手町版キャップストーンプログラム」については、次の二つの取組を行いました。

・株式会社さとうからの依頼により、新たに進出予定の商業施設が若者から高齢者までに愛される施設となるよう、愛称の公募、選考、決定等の取り組みが行われました。

・井手町商工会からの依頼により、各商店等の店主の高齢化や、HPやSNS等による店舗の情報発信等が充分にできず、商店の活性化が課題となっていることから、SNSを用いた町内の店舗の魅力発信を行う事業に取り組みました。

２. 図書館による出張貸出【実績額:499,527円】（社会教育課）

毎週水曜・金曜に図書館出張貸出として、町内2拠点において貸出を実施しました。また、住民福祉課、子育て支援センターが実施する「おもちゃ図書館」の会場において、出張貸出を実施しました。ともに、児童書、絵本を始めとした子供向けの図書や、育児書、料理書、女性向け雑誌など母親向けの図書・雑誌資料を重点的に用意し、子育て世代が自宅の近くで貸出を受けられる環境づくりに取り組みました。

1.「子育て、子育ちにやさしい」京都創生プロジェクト事業

【デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）】

KPI（府全域）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和５年度の目標		令和５年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
モデル地域市町村における人口の社会減解消（人／年間）	-926	R3.3	0	R8.3	-426	R6.3	-1,134	R6.3
市町村による重点取り組みエリアの設定（箇所／年間）	4	R3.3	29	R8.3	19	R6.3	25	R6.3
エリアの起業数、雇用数等（関係人口の創出）（件／年間）	0	R3.3	580	R8.3	235	R6.3	未発表（※）	R6.3

※エリアの企業数、雇用数等については、令和７年12月頃判明予定です。

１.「子育て、子育ちにやさしい」京都創生プロジェクト事業

【デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）】

事業の効果

○「「むすび家ide」については、京都産業大学井手応援隊等により、寺子屋（５月～９月）が全９回開催され、延べ９４名の利用がありました。また、令和５年度よりコロナ禍により休業していた「むすび家カフェ」についても営業を再開し、井手応援隊の協力の下で第１、第３土曜日に営業を行い、令和６年３月末時点で、２０日間の営業で延べ６５３人の利用があり、小学生に限られない幅広い町民の交流促進及び町の食の魅力発信に寄与しています。

○井手応援隊の学生が「テオテラスいで」においてイルミネーションイベントを実施し井手町民や大学生の熱気あるステージ披露、出店、子供たちの楽しめるワークショップなど様々なイベントを実施し、町内外から来場者が訪れ、町の魅力を発信するイベントとすることができました。町内の関係団体等から寄せられた課題について、解決策の検討や提案、実践までを学生が行う「井手町版キャップストーンプログラム」により、山城多賀駅前にオープン予定であった複合商業施設（令和６年７月オープン）が地域住民に愛される施設となるように、地域住民からの幅広い意見聴取等により愛称が決定しました。井手町商工会からの依頼により、京都産業大学井手応援隊がプロデューサーになり、若者に人気のＳＮＳ等を利用した町内の商店の魅力発信を行う事業を展開しました。作成されたアカウントは商店店主が引継ぎ今後も発信していくことで商店の活性化への貢献が期待されます。

今後の展開

○「むすび家ide」については令和６年度から７年度にかけて耐震補強工事を実施することとしており、工事終了後にカフェの営業等については再開予定です。寺子屋等については小学校協力の元、学校の教室等をお借りして実施。その他の各種企画の実施や地域イベントへの参画など、引き続き学生の主体的な活動を支援していきます。

○冬のイルミネーションイベント等の開催については、町内の各種団体や地元商店等と連携しながら、更なる効果的な新たな魅力発信、活性化に寄与するサスティナブルな事業実施を学生目線で展開していきます。

井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	2
どちらかといえば有効であった	3
どちらともいえない	2
どちらかといえば有効とはいえない	1
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

〇大学生が多く関わって頂けて、賑わいを創出できていた。イデフルの名称決めはとても良かった。住民に広く伝わっているように思える。また、むすび家ideを拠点として活動を感じられた。（産業界）

〇井手町ならではの田舎からの寺子屋を生かして昔ながらの遊び伝承遊びなどのイベントをしてみてはどうか。おはじき、コマなどの作成をしたりしても盛り上がるのではないか。イルミネーションイベントも何かとコラボできても楽しいのではないかと思う。（産業界）

〇外国人が多いイメージ。言葉の壁が支障となっているのは考えてゆく必要がある。（まちづくり団体）

〇図書の出張貸出について、事業前と比較して利用率がどのくらい上昇したか。また、課題や改善点等も必要。（金融機関）

〇評価時期がコロナ禍からの回復途上であったため、KPIの指標を評価しづらいが、プロジェクトやイベントへの参加者も多く、一定の効果があったのではと考える。（行政機関）

２．あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

【デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）】

【令和５年度予算分】

事業費：８，３３９，０６６円　　交付金充当額：４，１６９，５３３円（補助率１／２）

事業内容

１．ＤＭＯが行う地域マネジメント推進費【実績額：1,098,000円】（地域創生推進室）

広域的観光やまちづくりを推進する「お茶の京都ＤＭＯ」に分担金を負担することで、広域・統一ブランディングでの観光・集客サービスの提供や地域資源を活用した取組の推進を行いました。

（井手町関係の主な取組内容）

①家康伊賀越えの道　歴史ウォーキングツアー（ふれあいセンターでの講談）

②伊賀越え関連プロモーション　（YouTube動画制作2本　魚又・みどり農園）

③「知ってる家康」スマホでめぐる家康浪漫デジタルスタンプラリー（田原道）

２．子育て世代と地域を結ぶコミュニティづくり【実績額：2,698,300円】（地域創生推進室）

〇特産品開発推進のための研修・試作等の実施に係るコンサルティング業務委託費

「テオテラスいで」での販売及びふるさと納税返礼品の拡充のため、5回のワークショップを行いニーズや消費者の反応を測るため、「テオテラスいで」でテストマーケティングを実施しました。

３.山背古道でつなぐ広域まちづくり事業【実績額：500,000円】（企画財政課）

山背古道は新型コロナウイルス感染拡大で中止となっていた山背古道春のハーフウォーク、とことんウォーキングを令和4年度から再開しています。また山背古道探検隊への委託事業として「山背古道探検隊プロジェクト」も開催。さらに能動的にまちの魅力を発見・体感することができ、SNS等を活用してウォーキングを違った角度から楽しんで頂ける謎解きラリーの第3弾も開催しました。

４.魅力ある雇用と新たな交流を生む道の駅づくり（ソフト事業）【実績額：4,042,766円】（地域創生推進室）

テオテラスいでのオープンに向けて必要な消耗品の購入や光熱費、また、オープニングイベントの集客材料として器具・機械の借上げを行いました。

２．あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

【デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）】

【令和４年度予算分（繰越）】

事業費：１０，４２８，０００円　　交付金充当額：５，２１４，０００円（補助率１／２）

事業内容

１．魅力ある雇用と新たな交流を生む道の駅づくり（ハード事業）【実績額：10,428,000円】

（地域創生推進室）

令和５年９月にオープンしたテオテラスいでの物販管理システムを整備しました。テオテラスいでは、令和６年３月末時点でのべ4.1万人（レジ通過者数）が利用しており、地域の交流拠点としてにぎわいを見せています。

※令和４年度にテオテラスいでの物販管理システムを整備するために契約を締結していましたが、実際のレジ・券売機等の納入が令和５年度になったことから、予算を令和５年度に繰り越して事業を実施したものです。

▼完成したテオテラスいで

▼テオテラスいでのオープンを知らせるチラシ

２．あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

【デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）】

KPI（府全域）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和５年度の目標値		令和５年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
地域への移住者、地域活動にかかわった地域外の人の延べ人数（人）	704	R3.3	1,144	R8.3	924	R6.3	2,386	R6.3
地域での新規就職者数（人）	1,053	R3.3	1,553	R8.3	1,353	R6.3	835	R6.3
本事業により空き家等を活用して交流を行う拠点数（箇所）	0	R3.3	15	R8.3	7	R6.3	9	R6.3
地域の一人当たり所得向上額（千円）	3.6	R3.3	363.6	R8.3	183.6	R6.3	165	R6.3

２．あなたとともに「心やすらぐ地域の暮らしを」～みんなが主役の地域振興事業～

【デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）】

事業の効果

○お茶の京都DMOとの連携事業では、大河ドラマ『どうする家康』が注目されていたなかで、家康にまつわる歴史ウォーキングツアーやデジタルスタンプラリー、YouTube動画の製作を行ったことによって井手町の魅力の周知や歴史と現代のつながりを知っていただけました。また、歴史ウォーキングツアーの際に井手町山吹ふれあいセンターで講談を行ったことにより、昨年度開業した同建物内のテオテラスいでにお越しいただけたことにより魅力発信や販売促進にもつながりました。

○特産品開発推進のための研修・試作等の実施に係るコンサルティング業務委託費については、５回のワークショップを行うことで、事業の狙いや流れを確認し、特産品開発参加者の商品の試食や意見交換、講師からのアドバイスをいただくことで、商品の強み、弱みを知ることができました。テストマーケティングでは、市場での需要を肌で感じることができ、商品開発参加者への意欲増進につながったとともに、町内外の６０組の参加者より商品の味、値段に関する意見・評価などの市場の反応を把握することができました。課題の発見、解決を繰り返すことで現在までに８つの商品開発に成功しています。

○は～ふウォークには407人が、とことんウォーキングには467人が参加されました。とくに、とことんウォーキングでは、中間地点の受付会場を従来の井手町まちづくりセンター椿坂から、開業したての井手町役場新庁舎に変更し、テオテラスいでとの相乗効果で好評を博しました。また「山背古道探検隊プロジェクト」では、イベントでの山背古道PR活動や、井手町多賀の茶園での茶園整備、茶葉の収穫・加工などを実施する「お茶探検事業」等を通じ、山背古道の魅力を発信した。謎解きラリーの第３弾も開催。謎解きキットを1,700セットを作成、山背古道の魅力向上に寄与しました。

今後の展開

○お茶の京都ＤＭＯと引き続き連携し、地域資源を活用した観光・集客サービスを行っていきます。

○特産品開発推進事業支援の今後の方針として、味や外見だけでなく、共感を生むストーリーを加えるなどの差別化要因を付加することにより、消費者が買う理由付けを行います。在庫切れや品質低下などで消費者が不信を抱かないよう安定的出荷量の確保・品質の均一化を図ります。

○新型コロナウイルス感染症の影響により、屋外でのウォーキングの需要は高まっており、今後も引き続き、謎解きキット作成などによる工夫を凝らした企画や、山背古道ＰＲ活動や講演会、学習会等を実施する「山背古道探検プロジェクト事業」などを通じ、山背古道の魅力周知を図ります。

井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	3
どちらかといえば有効であった	5
どちらともいえない	0
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

〇ＤＭＯ製作動画はとても良かったが、再生回数やリーチ内容などをもう少し知りたい。特産品開発については年数が必要かと思うので引き続き行うべきと考える。ウォーキングイベントは参加者も多く、良かったのではないかと思う。（産業界）

〇テオテラスいでの食事の質を上げたり、クーポンを作ったりする工夫があってもよいのではないかと思う。（産業界）

〇特産品、商業施設の不足に関して、より具体的な事業計画や強化が必要。（金融機関）

〇テオテラスいでがオープンし、商品開発も今後に期待できると思う。また、ウォーキングに適した土地なので、今後も自然を活かした振興事業が進んでいけばと思う。（子育てサークル）

〇ＫＰＩと実施事業が結びついていないように見受けられる。実施効果にテオテラスいでにおける特産品の売り上げなど、井手町により近い実績が見えればよいと思った。（行政機関）

３．～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画～

【地方創生整備推進交付金】

【令和５年度予算分】

事業費：２，９４７，８００円　　交付金充当額：１，４７３，９００円(補助率１／２)

【令和４年度予算分（繰越）】

事業費：１７，２２０，７００円　　交付金充当額：８，６１０，３５０円(補助率１／２)

事業内容

１．町道事業（ハード事業）【実績額：20,168,500円】（建設課）

町道12号線他と町道34号線他は令和５年度までに調査及び測量設計を進め、公安委員会との協議が完了しました。引き続き詳細構造物の設計と工事着手前に必要となる関係機関協議と用地測量を進めます。町道49号線は路線上の対策を検討した３箇所の内、今回１箇所を完了し、これまでに２箇所での対策を終えています。

２．林道事業（ハード事業）【実績額：0円】（産業環境課）

計画延長2,840mのうち1,100mについては、京都府が府道和束井手線の拡幅等の工事を行うにあたっての迂回路とするため、令和３年度に舗装等の整備を行っていただいております。それに伴い、整備の計画等を見直す必要があったことから、令和５年度においては事業の実施を見送りました。

整備予定の路線名

①町道12号線ほか3線　道路改良（建設課）
②町道34号線ほか1線　道路改良（建設課）
③町道49号線　道路改良（建設課）
④林道片原山線　舗装改良（産業環境課）

３．～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画～

【地方創生整備推進交付金】

KPI（井手町）

本事業における重要業績評価指標（KPI）	事業開始前		本事業終了時の目標値		令和５年度の目標値		令和５年度の実績値	
	現状の値	年月	指標値	年月	指標値	年月	指標値	年月
指標１ 観光地等の間のアクセス改善 森林整備の効率								
大正池～展望台～観光農園～道の駅(分)	46	R3.3	41	R8.3	42	R6.3	45	R6.3
六体石仏～木材加工場（分）	47	R3.3	34	R8.3	41	R6.3	42	R6.3
指標２　観光交流の活性化								
道の駅の年間来場者数（万人）	0	R3.3	15	R8.3	7.5	R6.3	4.1	R6.3

事業の効果と今後の展開

○町道12号線他と町道34号線他については、国道バイパスの整備効果が町内に得られるようアクセス機能を視野に整備を計画しています。また、国道バイパス供用までに町道整備の効果が得られるよう事業を展開し、今後は事業着手に向けて関係機関協議と用地測量及び買収を進めます。町道49号線は残りの対策予定箇所の工事を引き続き進めます。

○林道については、令和６～７年度に事業を実施し、京都府が令和３年度に整備された部分と合わせると、計画延長全体の整備が完了する見込みです。

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）中間評価調書

都道府県名	京都府	事業実施主体	京都府、井手町	地域再生計画名	～自然と共に生きる井手の里山～周遊観光ルート整備創生計画
計画期間	令和３年度～令和７年度	評価責任者	京都府森の保全推進課長、井手町企画財政課長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況

指標		基準値	基準年度	中間目標値	年度	中間実績	最終目標値	基準年度	中間評価	達成状況 指標総数	達成状況 達成数	中間目標値の実現状況に関する評価
指標１	交流人口の増加	37.6万人	R1	40.5万人	R5	26.8万人	52.5万人	R7	×	4	0	コロナ禍による交流人口の減少からの回復は見られなかった。
指標２	道の駅の年間来場者数	0人	R3	7.5万人	R5	4.1万人	15万人	R7	×			国道24号城陽井手木津川バイパスの供用に先駆けて、地域交流拠点施設として開業することとなった。今後もバイパスの全通までは目標の達成が困難な状況である。
指標３	町事業を通じた町内での新規創業	0件	R3	2件	R5	1件	4件	R7	×			令和５年度末時点では目標未達成となっているが、京都府との連携により取り組んできた企業誘致の成果として、令和６年夏に開業した多賀駅前商業施設にて５社が新たに進出していることから、最終目標を達成できる見通しとなっている。
指標４	森林整備面積の増加	0.04ha	R3	1ha	R5	0	5ha	R7	×			林道整備を令和６～７年度に行う予定であり、完了後に事業を行うため目標の達成は困難な状況である。

②事業の進捗状況

	事業名	整備量（その他の事業では取組内容） 計画	中間年度（R5）	最終実績見込み	事業の進捗状況に関する評価
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業	2,703m	300m	2,703m	当初計画に対し、関係事業である国道24号城陽井手木津川バイパスの計画と調整を行いつつ町道事業の測量設計及び関係機関協議を進めるとともに、一部区間において工事を実施している。また、関係機関協議に時間を要し、国道バイパス関連の事業についても当初計画より進捗の遅れがあることから、事業期間及び必要となった費用の見直しを行い今後の事業の進展を図る。
	林道整備事業	2,840m	0m	1,740m	当初計画で整備を予定していた計画延長2,840mの内、1,100mは令和3年度に京都府に実施いただいた本計画外の事業により整備が完了したことから、事業計画を見直す必要が生じており、中間年度時点の進捗率は0%となった。今後、令和6～7年度においては計画外で整備済みとなっている1,100mを除いた1,740mを本計画により整備する予定である。
その他の事業	地域交流拠点施設整備・運営事業	地域交流拠点施設テオテラスいでの整備・運営を実施			当初、道の駅としての開業を目指していたが、関係機関との調整により、地域交流拠点施設として令和5年9月に開業することになった。現時点では指標2に掲げる年間来場者の目標達成は困難と考えられるものの、今後、国道24城陽井手木津川バイパスが全通した際には大幅な利用者の増加が期待されている。
	井手町特産品開発事業	井手町の歴史・文化に根差した特産品開発を推進			令和3年度に開始した本事業では、新たに開発した特産品と既存の特産品の開発を合わせ、6種類の特産品の開発を行っている。また、町内で起業された新たな事業者も参加されており、町の産業振興に寄与している。
	井手町地域おこし協力隊事業	地域交流拠点施設及び特産品開発等の取組を進める外部人材の活用を推進			令和2年度以降、地域おこし協力隊としてのべ4名を任用している。うち2名は令和6年度で任期満了となるが、今後も本町に定住し、地域で起業を目指す意向を伺っている。
	森林整備事業	民間企業と連携し適切な森林整備を推進			サントリーやオムロンなど、町と協定を締結した民間企業と連携し森林整備を推進し、森林の公益的機能の増進、維持管理及び利活用のための木材搬出に努めた。この間、間伐した木材は地域交流拠点施設のカフェスペースのテーブルなどとしても活用されており、利用者の環境保護の意識啓発にもつながっている。
計画外で独自に実施した事業	企業誘致促進事業	本町の立地や利便性などを活かした企業誘致を促進			京都府との連携や民間主導の工業団地の整備促進などを進めている。その成果として、令和6年6月には山城多賀駅前に商業施設が開業し、地域における日々の買い物の場として多くの住民に利用されている。

③評価方法	８月２８日（水）に開催した井手町地域創生推進会議にて中間目標値の実現状況に関する評価・検討等を実施。
④中間評価の公表方法	井手町ホームページに掲載（予定）
⑤計画全体の総合評価	本事業は、町道及び林道を一体的に整備することにより、個別に整備するのに比べて、効率的かつ効果的な施設配置が可能となり、観光地の連携や林業の振興といった地域再生の目標達成を目指すものである。 指標１及び２については、町と域外を結ぶ新たな周遊・流通の軸として期待される国道24号城陽井手木津川バイパスの整備が遅れており、目標達成には時間を要するものと考えられるが、地域再生計画の期間延長など、必要な手段を講じつつ、引き続き取り組みを進めていく。

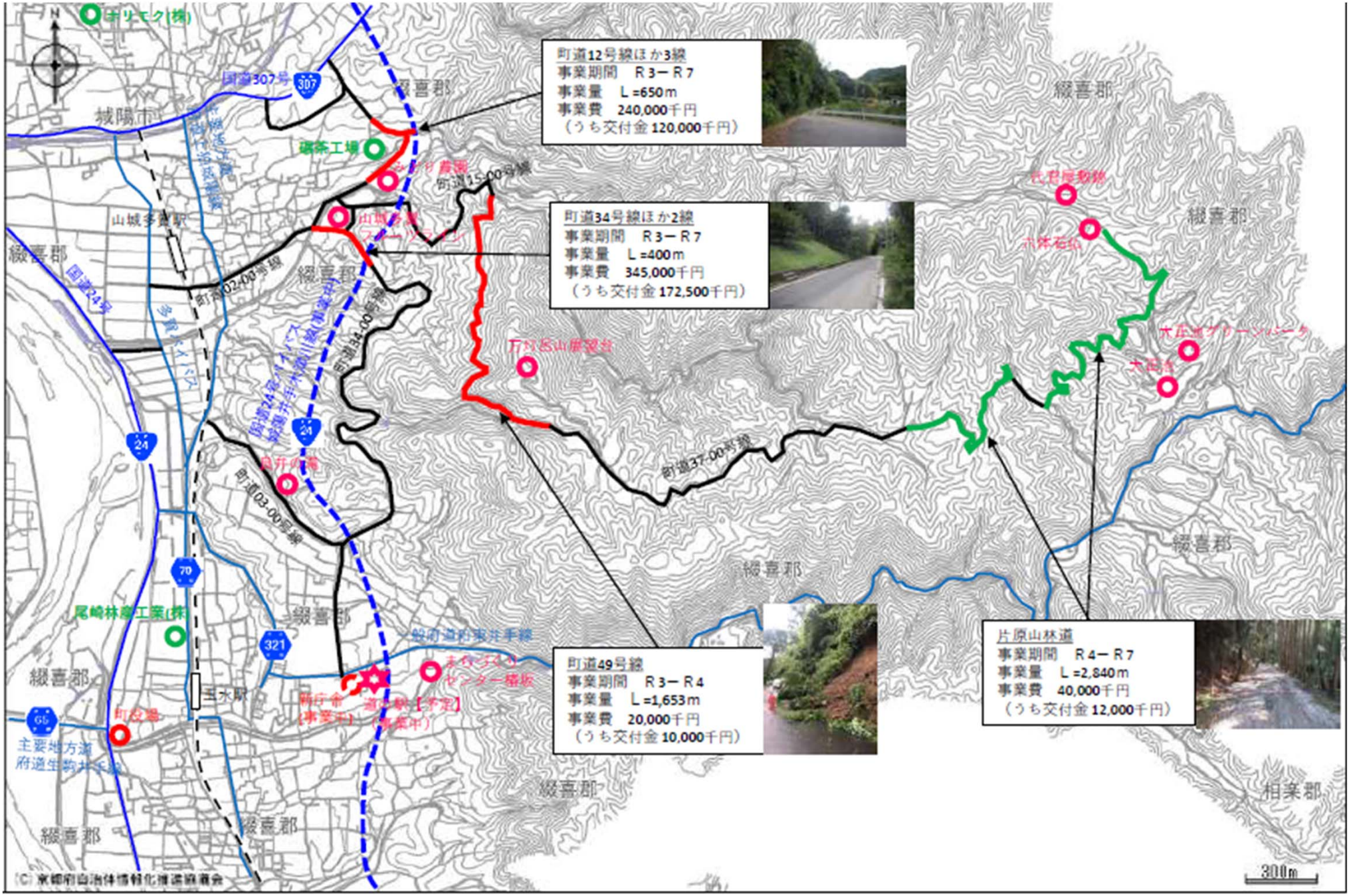
⑥今後の方針等

中間評価結果の反映状況	有りの場合その具体的内容
地域再生計画の見直し （ 有 ・ 無 ）	国道24号城陽井手木津川バイパスと合わせた事業進捗の遅れにより、現行計画の範囲内では事業目標の達成が困難な状況となっている。 このため、中間評価の結果を踏まえ、計画変更や事業期間を２年延伸する。
令和６年度予算要望額への反映 （ 有 ・ 無 ） 有りの場合の増減額 △１１４，２４６千円	国道24号城陽井手木津川バイパスと合わせた事業進捗の遅れを踏まえ、町道事業について各年度の計画額の割り振りを見直す必要があることから、令和６年度要望額については減額する。

⑦今後の方針等に対する対応

●事業期間延長及び計画の変更の認定申請を予定
●国道24号城陽井手木津川バイパスの整備と合わせた事業進捗の遅れを踏まえた町道事業における各年度事業量の見直し
・令和６年度事業費
認定時２６５，０００千円→見直し後３６，５０８千円［２２８，４９２千円（うち交付金１１４，２４６千円）減］
・令和７年度事業費
認定時２０７，０００千円→見直し後１３６，０００千円［７１，０００千円（うち交付金３５，５００千円）減］
・令和８年度事業費
認定時０千円→見直し後４１６，０００千円［４１６，０００千円（うち交付金２０８，０００千円）増］
・令和９年度事業費
認定時０千円→見直し後２８１，４９２千円［２８１，４９２千円（うち交付金１４０，７４６千円）増］
●人件費及び物価の高騰、埋蔵文化財への対応、関係機関との協議結果を受けた構造物の追加等による町道事業の総事業費の増額
・総事業費
認定時６４０，０００千円→見直し後１，０３８，０００千円［３９８，０００千円（うち交付金１９９，０００千円）増］

整備する施設の整備区域又は整備箇所を示した図面



井手町地域創生推進会議による効果検証の結果

KPI（目標）に有効であるか	票数
有効であった	2
どちらかといえば有効であった	4
どちらともいえない	2
どちらかといえば有効とはいえない	0
有効とはいえない	0

委員の主なコメント

○期間の延期などで数値的な目標を達していないのは仕方ないかと思う。全体的な数値が上がっているので計画通りでよい。周遊観光整備は、交流人口には必要な事業なので進めていただきたい。（産業界）

○放置竹林が多くあるので、通る方が怪我などをしないよう、できるだけ整備していってほしい。（産業界）

○山背古道のルートのうち、自然休養村管理センターの辺りは竹の根で道がぼこぼこになっていて危ないと思う。今回の事業の対象ではないかもしれないが、対応していってほしい。また、万灯呂山へのルートも、竹が竹や木が覆いかぶさってきている箇所があるため、整備を進めていく必要があると思う。（まちづくり団体）

○道の駅はバイパスの開通が実現して完成を見ると思うので、今後に期待したい。（子育てサークル）